

平成26年度「高校生読書率向上プロジェクト」 補助者派遣の状況

1. 目的・内容

高校図書館司書（学校司書）や司書教諭・国語科教諭等の教員の協力の下、県内各高校に、高校生の自発的な読書意欲を喚起するのに有効なツールである「ビブリオバトル」の普及を、立命館大学と連携しながら、県教育委員会が進めています。

高校	日時	実施時間・実施場面	補助者	生徒	教員・司書	備考
①滋賀短大附属高校	7月18日	文化祭の一環 ：図書委員会+有志	2名	30名	10名	
②彦根翔陽高校 ※詳細は次のページ	9月1日	授業：国語科 (選択講座：現代文A)	2名	10名	6名	
③米原高校	10月20日	放課後：図書委員会	1名	13名	4名	
④水口高校	10月22日	放課後：図書委員会	1名	25名	4名	
⑤国際情報高校	10月24日	授業：国語科 (国語表現)	1名	37名	8名	
⑥伊吹高校	11月18日	放課後 ：図書委員会+有志	1名	9名	9名	
⑦彦根西高校	11月26日	放課後 ：国語科教員研修	1名		10名	※教員対象

2. 当日の様子

①滋賀短大附属高校



③米原高校



④水口高校での様子



⑤国際情報高校



⑥伊吹高校



⑦彦根西高校



3. 彦根翔陽高校における補助者派遣の状況

日時：平成26年9月1日（月）4校時（11時55分～12時45分）

教科：国語科（現代文A）

場所：彦根翔陽高校図書室

参加者：立命館大学学生2名、2年生10名、学校長1名、担当教諭1名、学校司書1名、他教諭3名
計18名

当課担当が、ビブリオバトルの実施方法やルールの説明をした後、補助者である立命館大学の学生2人と校長先生がビブリオバトルの実演をしました。

発表者1：立命館大学学生（補助者）
『嫌われる勇氣』
（岸見一郎・古賀史健著）

発表者2：立命館大学学生（補助者）
『プロポーズはいらない』
（中村うさぎ著）

発表者3：校長先生
『青い鳥』
（重松清著）



それぞれの発表の後には、参加者全員で発表に関する質疑応答を2分行いました。

すべての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者一人1票として行い、『チャンプ本』を決定しました。

結果は、発表者1の学生が紹介された『嫌われる勇氣』（岸見一郎・古賀史健著）が最多票を集め、チャンプ本に選ばれました。

〈担当教諭の感想〉（一部抜粋）

- ・実際に立命館大学生に実演していただき、生徒たちもビブリオバトルに大変関心を持ち、さっそく司書の先生に本について聞いていました。
- ・補助者派遣後に、ビブリオバトルを実施したところ、生徒たちは積極的に自分の選んだ本を紹介し、普段よりもいきいきとした姿を見ることができました。
- ・今後、定期的の実施していきたいと考えています。ぜひまた大学生の方にも来ていただき、お手本になっていただけると生徒たちも喜びます。

〈生徒の感想〉（一部抜粋）

- ・私も本当に好きな本を見つけて、みんなに紹介したいなと思いました。
- ・自分では絶対に手に取らないような本などを教えてもらって楽しかったです。
- ・いろんな本を知ることができ、本を読んでみたいというきっかけになりました。
- ・5分という制限された時間の中で本の魅力を伝えるというのはとても難しいんだなと思いました。
- ・発表することは苦手ですが、自分なりにちょっとでも楽しく選んだ本のことについて伝えられればいいなと思います。

補助者派遣を終えた後、授業で何度かビブリオバトルをされたところ、生徒たちは積極的に自分の選んだ本を紹介し、他の生徒の紹介本に対しても質問をするなど、いきいきとした姿でビブリオバトルに取り組んでいたとその後の様子を、学校から御報告いただいています。